

エベネゼル緊急基金



EBENEZER
OPERATION EXODUS

主の栄光

「祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が【主】の宮に満ちた。祭司たちは、その雲のために、
立って仕えることができなかった。【主】の栄光が【主】の宮に満ちたからである。」
第1列王記8章10－11節

A Christian organisation helping the Jewish people return to Israel



主の栄光が主の家に満ち

国際



フィリップ・ホルムバーク
国際理事会 会長

「祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が【主】の宮に満ちた。祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。【主】の栄光が【主】の宮に満ちたからである。」(列王記 8章10～11節)

2025年の元日、私は新しい年、あるいは少なくともその年の初めの御言葉を求めて聖書を読み、祈っていました。そのとき、上記の御言葉が私の心に強く留まりました。

私は可能な限り、静かな時間に聖書を声に出して読むことを習慣にしています。そうすることで、目で読むだけでなく、口で語り、耳で聞くことによって御言葉をより深く受け取ることができます。

なんと驚くべき箇所でしょうか!主の栄光「その聖なる臨在と力」が非常に明確かつ強力に神殿を満たしたため、祭司たちは務めを続けることができなかったのです。

その日、そして今この文章を書いているときも、私の祈りは「エベネゼル・出エジプト作戦」、すなわち主の家のこの部分が主の栄光に満たされることです。私たちの最も重要な目的は、イスラエルの神の栄光を現し、そ

の御名を聖なるものとすることです。それは、アリヤー（ユダヤ人の帰還）における主への奉仕——祈り、ユダヤ人への実際的支援、そしてアリヤーのメッセージを教会に伝えること——を通して成し遂げられます。

私たちはユダヤ人とともに、神の証人なのです。イスラエルの神は生ける神であり、唯一まことの神であり、こう宣言されます。「イスラエルの王である【主】、これを贖う方、万軍の【主】はこう言われる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はいない。」(イザヤ書44章6節)。

私たちは御言葉を完全に信頼できます。神はその約束を例外なく果たされます。ソロモン王は神殿奉献の祈りの中で、これを次のように見事に表現しています(列王記8章24節):「...あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。」神がご自身の御言葉を実現されるとき、その御名はあがめられるのです。

世界中から多くのユダヤ人がイスラエルへ帰還している今、それは神がご自身の約束を守っておられる明白な証拠です——神はその聖なる御名のゆえにそれを行っておられるのです



ちた



「家 (house)」という言葉は、実際の建物を指すことがあります。たとえば、ダビデ王のエルサレムの宮殿、幕屋、第一神殿や第二神殿などです。しかし、「家」という言葉は、家族や国家を指すこともあります。聖書では「ダビデの家」とあり、これはダビデの家族、特に彼の子孫たち、最終的にはメシアである「ダビデの子」を意味します。また「イスラエルの家」という言葉は、ユダヤ民族を歴史を通して、そして今日に至るまで指しています。

この第二の意味において、「エベネゼルの家」、つまり「エベネゼルの家族」と言うことができます。そして、私の心からの祈りは、この「主の家」であるエベネゼル出エジプト作戦が、主の栄光で満ちることです！

私たちがアリヤー（ユダヤ人の帰還）に関する預言的な約束を握り続け、神の御言葉に従って、ユダヤ人の帰還のために祈り、執り成しを続けるならば、私たちは神の召し、つまりエベネゼルに対する神の使命を追い求めているのです。ユダヤ人がイスラエルに帰還することは、主の御名に栄光をもたらします。

私たちが異国にいるユダヤ人に対して、アリヤーのメッセージを分かち合い、食料パッケージを配り、領事館や空港まで荷物とともに送るといった思いやりの行動を通して、彼らを慰め、アリヤーを勧め、イスラエルでの生活をさまざまな形で助けると、私たちは神の召しを実践しているのです。

また、アリヤーのメッセージを他の信仰者と分かち合い、教会やクリスチャンの集まりで話す機会を得ようとし、牧師やリーダーたちをエベネゼルのイベントに招待し、次世代のためのセミナーやイベントを企画することも、まだ届いていない人々に手を差し伸べる大切な方法です。使徒パウロはエペソの長老たちに「神の全計画を余すところなく伝えた」と言いました（使徒20:27）。私たちは神の召しを追い求めています。

しかしながら、私たち一人一人が、誇りや「すべて知っている」といった態度ではなく、へりくだった心で主に仕えることが重要です。柔軟な心を持ち、告白と悔い改めを喜んで行い、関わる人々に対する愛を持ち、「すべて

の国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するために仕える主のしもべであり執り成し手である」というビジョンをもって忍耐強く歩む必要があります。

このような謙遜の姿勢は、ソロモン王が第一神殿を奉献する際の祈り（歴代誌第二6章）にも見られます。彼は繰り返しこう祈っています。「あなたが聞いて、赦してください！」ある時には、「人があなたに罪を犯したとき（罪を犯さない者はいません）、ユダヤ人が敵の地へ捕らえ移されるとき…」とさえ祈ります。この祈りの中に、アリヤーのモデルを見ることが出来ます：

1. 彼らが自分の状態に気づいたとき
2. そして悔い改め、あなたに願い求めるとき
3. 彼らが心を尽くし、魂を尽くしてあなたに立ち返るとき
4. そのとき、彼らの祈りを聞き、彼らの訴えを取り上げ、あなたの民を赦してください

神はご自身の民の訴えを必ず取り上げてく

だします。

なぜなら神はこう約束されているからです：「わたしは必ず彼らをこの地に植える。それはわたしの心を尽くし、魂を尽くして、彼らに良くしようと喜ぶからである」（エレミヤ書32章41節）。

主の栄光が主の家に満ちるでしょう。

用語解説

アリヤー (Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関 (Jewish Agency):

ユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム (Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人

クリタ (Klitha)

吸収を意味し、イスラエルに到着したオリムたちの生活を確立させること。ヘブライ語の学び、就職、住居、学校、IDFへの従事など。

フランスにおける反ユダヤ主義

フランス



ベルナデット・トリボドー
エベネゼル・フランス 会長

「わたしがあなたの神、【主】であり、あなたの右の手を固く握り、『恐れるな。わたしがあなたを助ける』と言う者だからである。
イザヤ書 41章13節

近年、フランス全土における反ユダヤ的な事件の件数が4倍に増加し、この20年間で状況は悪化の一途をたどっています。ユダヤ人に対する空気は、耐えがたいものとなってきています。

この主な原因は、極左の政治支持者や、社会党、緑の党、共産党などの政党にあります。彼らはイスラエルが被害者となる場面では沈黙を守り、イスラエルを非難する機会を常に利用しています。

過去1か月の間に、マルセイユやサン＝ナゼールといった主要都市で破壊行為が増加し、建物や学校が許しがたい落書きで汚されました。

「メズーザ（ユダヤの宗教的印）を理由に家に印をつけられたり、子どもを学校から退学させたりするなど、フランスで安全に暮らせないと感じるユダヤ人からの証言が急増しています」と、オーロール・ベルジェ大臣は述べ、「イスラエルへの憎しみを糧とする反ユダヤ主義の一形態である反シオニズムの再来を憂慮し、社会が反ユダヤ主義に対して立ち上がるように」と訴えました。

マルセイユ最大の病院であるラ・ティモヌにある建物に書かれた「反シオニスト・マルセイユ」という巨大な落書きは、地元の右派勢力から強い反発を呼びました。「マルセイユ中心部の建物を損壊した者たちを強く非難します。反シオニズムという、我慢ならない反ユダヤ主義の仮面は、マルセイユにも南仏地域にも居場所はありません」と、この地域の知事であるルノー・ムズリエ氏は述べました。

フランス政府内でも、大臣たちが反ユダヤ主義に対して立場を明確にし始めています。これは重要なことですし、私たちのように執り成しの祈りを捧げる者にとっても、当局のために祈り続け、ユダヤ人コミュニティが安全に生活し、良い状況でアリヤ（イスラエルへの帰還）の準備ができるよう励まされることでもあります。

昨年12月のアリヤー団体便で良い反応が得られたことを受けて、エベネゼル・フランスは「イスラエルのためのクリスチャン国際団体」と協力し、2025年には4～5回の団体便を支援し、フランス各地から空港への送迎サービスを提供し、さまざまな実務面での支援を行う計画です。

こうしたユダヤ人への支援の姿勢は、2024年にアリヤーを果たした2,000人以上のフランス人オリム（移住者）に続く人々を励ますことにもつながるでしょう。

2025年に予定されているフランス発のアリヤー団体便と、私たちのチームの働きのために、どうぞお祈りください。

右写真：マルセイユ最大の病院ラ・ティモヌの建物に書かれた「反シオニスト・マルセイユ」の落書き



アリヤー (帰還) の夢

ユダヤ機関を通じて、今年アリヤーを希望するものの経済的支援を必要としていたオリム (帰還者) たちを助けることができたことを、神に感謝します。私たちが支援したオリムの中には、マルツィさんとティヴァダールさんがいました。

マルツィ (30歳) は家庭を持ちたいと願っており、宗教的シオニストとして、イスラエルでそれを実現することは長年の夢でした。若い頃から働きながら、ブダペストのユダヤ大学でユダヤ学を修了しました。

ティヴァダール (53歳) : 「私が先祖の地に戻りたいと願ったのは、15年以上も前

のことです。私の祖母はホロコーストの生存者です。強制収容所が解放されていなければ、家族のユダヤ人としてのアイデンティティを守ろうとしてきた母は存在していなかったでしょう。私はエイラットに移住し、私の民の地で新しい人生を始めたいのです。」

✓ どうか以下のことのために祈ってください:

- ✓ ・ オリムたちがイスラエルの地にしっかりと根を下ろせるように
- ✓ ・ 私たちが神の御言葉と導きを聞き取り、神に選ばれた民のアリヤーを助けることができるように

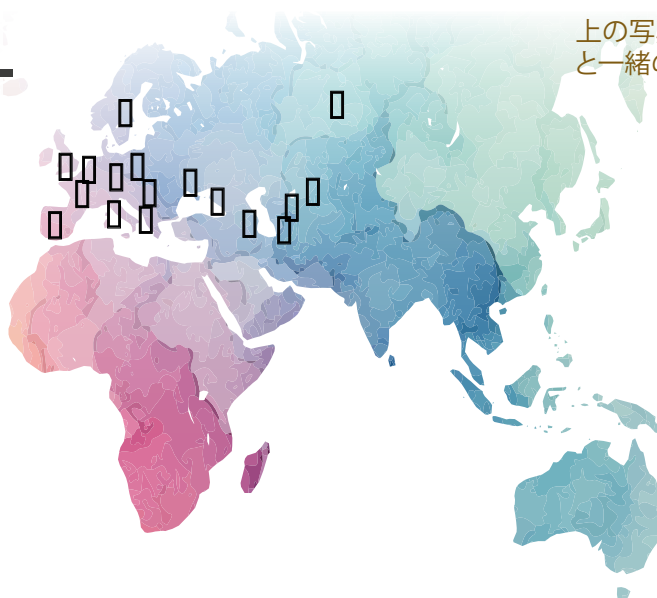
✓ハンガリー



ジュジャナ・キシュ
ハンガリーチーム

COUNTRIES WE SUP-

PORTED IN ALIYAH



上の写真: 新しい友人たち
と一緒にマルツィ

Special Israel Tour

SEE BIBLICAL PROPHECY BEING FULFILLED

19-27 January 2026

→ ebenezer-oe.org/events

50%
DISCOUNT FOR PAS-
TORS



BUENOS AIRES International Airport



アルゼンチンからのアリヤー

アルゼンチン



ラウル・ルイエ
エベネゼル・アルゼンチン 会長

左下写真: イスラエルさん、シンシアさん、ソフィアさん、ソルさん

右下写真: エベネゼルの拠点にて家族一同

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」 イザヤ書 41章10節

イスラエルさん、シンシアさん、ソフィアさん、ソルさんの家族は、イスラエルの地に移住したいという強い願いを抱いていました。彼らにとって、イスラエルに行くという夢は、あらゆるユダヤの祭りやシャバットで語られる恒例の話題でした。

いよいよ出発の決断を下すときが来たとき、彼らは迷わずブエノスアイレスのユダヤ機関に相談しましたが、その決断には多くの費用が伴い、家族にとって大きな試練となりました。

そんなとき、ユダヤ人コミュニティの友人がエベネゼルのことを教えてくれました。「キリスト教の団体で、ユダヤの人々を助け、愛している」と。その後私が彼らに会ったとき、これまでにイスラエルで幸せに暮らしている何百もの家族を支援してきたことを話しました。彼らは迷うことなく助けを求めてきました。

ブエノスアイレスのオフィスに来てくださるご家族の一人ひとりが、「なぜイスラエ

ルに戻りたいと思ったのか」を語ってくれることを、私たちはいつも感謝しています。

シンシアさんは長年、アルゼンチンの「ツェダカ財団(ショアー生存者支援プログラム)」で、ホロコーストを生き延びた人々の支援に尽力してきました。彼女によれば、今も約150名の生存者が残っており、彼らの多くは幼い頃に複数の強制収容所を経験し、想像を絶する残虐行為に耐え抜いてきたのです。現在も多くの人々が援助や愛情、時には人道的支援を必要としています。シンシアさんは彼らのために人生を捧げ、今でも深い感動をもって彼らのことを語ります。

2024年5月、ついに家族はイスラエルに到着しました。最初の15日間は「ディラット・ケレット」という新移民者のための支援施設で過ごし、その後、初めて自分たちで家を借りることができました。シンシアさんによれば、「あまりにも多くの支援や贈り物を受け取って、イスラエルの新しい家のほうが、アルゼンチンでの家よりも充実している」とのことです。

イスラエルさんも、出発前は仕事が見つかるか不安に感じていましたが、到着からわずか2週間後には、とても快適に働ける職場に就くことができたそうです。



国際理事会のために お祈りください！



私はスウェーデン出身のフィリップです。

2023年の初めに、ピート・スタッケンの後任として理事長に就任しました。助産師である妻のウラとは49年間結婚生活を送っており、5人の子どもがいますが、末娘のウルリカは5年前に亡くなりました。孫は7人います。

私は宣教師の家庭で育ち、両親は中国とインドで奉仕していました。ウラと私は1980年代にブータンで5年間奉仕しました。私は教員および校長として長年働いてきました。

エベネゼルの一員であることを心から感謝していますが、同時に皆さんのお祈りが必要です！



私はメキシコ出身のエリベルト・ゴンザレスです。

1999年からエベネゼルの働きに関わり、10年以上にわたり国際理事会のメンバーを務めております。妻のレティシアとは結婚して38年。3人の子どもと6人の孫がいます。

私は1975年、地元のメソジスト教会で起きた強力なリバイバルの中でクリスチャンとして新しく生まれ変わりました。

会計と管理の分野で働いており、34年間さまざまな企業で幹部として務めてきました。また、これまでの23年間、地元教会の主任牧師も務めています。

祈り



国際理事会メンバー
エベネゼル緊急基金インター
ナショナル理事会メンバー：
エリベルト・ゴンザレス
ニコラス・コーツ
ジャン・ルカ・モロッティ
ゲイリー・カー
フィリップ・ホルムベリ
アベ・ウーメン

どうぞ、理事会と執行チームのためにお祈りください：

- ✓ 交わりと一致、恵みと愛、奉仕と行動において、一つのチームとなるように
- ✓ 主の大牧者に従う牧者として歩むことができるように
- ✓ すべての国と地域のチームに対して、深い配慮（II コリント 11 章 28 節）を持つことができるように
- ✓ アリヤーのメッセージを分かち合う
- ✓ ことで、届いていない人々に届くことができるように（ローマ 15 章 20 - 21 節）
- ✓ 神が初めから終わりまで、私たちを通して行われるすべての働きが、主の栄光を現し、偉大な御名に誉れと賛美をもたらすためであることを決して忘れないように
- ✓ 知恵と啓示の霊が与えられるように

STAY UPDATED!

Follow us across our digital media platforms
and never miss an update!



On Facebook: Ebenezer OE
International
& Instagram: ebenezer_oe_eng



On YouTube & Telegram search:
Ebenezer Operation Exodus



New Children's story available!
www.ebenezer-oe.org/children



Prefer to listen? Our bulletin is now
available in audio on our website.

ベイト・ヨナ・アシュドット

イスラエル



コリン・ロス
イスラエルチーム

「私のたましいが私のうちで衰え果てたとき、私は【主】を思い出しました。私の祈りはあなたに、あなたの聖なる宮に届きました。」
ヨナ書 2章7節

今これを書いている時点で、私たちは新しいオリム（イスラエルへの移住者）たちが、人生の新たな数週間をベイト・ヨナ・アシュドットで過ごすために到着するのを楽しみにしています。

エレナさんとその子どもたちが到着したとき、私たちは海を望む大きな窓辺で一緒にコーヒーとケーキをいただきました。エレナの11歳の娘アガタは、部屋の隅に掛けられていたギターを見て「弾いていいですか?」と尋ねました。彼女の演奏は本当に素晴らしく、子どもが不器用に楽器を弾く「微笑ましき」とは違う、本物の楽しさ



がありました。エレナには近くに親戚がいるため、彼女たちはその多くの時間を家族と過ごしていました。神様が、この新しいイスラエル人たちの為に道を備えてくださったのだと感じます。

今日は、アレックスさんと（別の）エレナさんが数週間後にアシュドットに来るという知らせを受けました。彼らの娘はすでにアシュドットに住んでおり、最近私たちの施設を見学し、写真を撮っていききました。彼女の感想は「思ったよりずっといいですね」とのことでした。「庭でバーベキューはできますか?」とも聞かれたので、楽しい時間が待っているようです!

預言者ヨナが大きな魚に吐き出されたのは、イスラエルの海岸でした。神は彼に与えられた召命に従う第二のチャンスを与えられました。伝統では、それはアシュドットの浜辺で起こったとされています。アシュドットのエベネゼルの新移住者のための家が「ベイト・ヨナ・アシュドット（ヨナの家）」と名付けられているのは、この預言者を記念し、またイスラエルの地に帰還して新たな生活を始めるユダヤの民に与えられた新しい機会を認めるためです。

私たちは今、新しいオリムを迎え入れ始めており、ここは快適な滞在先となっています。しかし、まだ多くの作業が残っています。私は今、上の階からキッチンを組み立てている音を聞いています。私は妻ロージーとこの最上階に住んでおり、日々の対応に追われる中で、私たちが少しでも逃れられる空間ができるのは嬉しいことです。早く完成することを願っています!

写真上:ベイト・ヨナ・アシュドットの居間

写真下:ベイト・ヨナの外観



Operation Exodus
Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus



エベネゼル緊急

〒005-0006 札幌市南区澄川6条3丁目
2-4-302 (岡田方)
Tel: 011-813-3558 (岡田)
paginamaestro@hotmail.com
http://eefj.org
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働き の名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に 3 人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた 25 カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。